

# 組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：工学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b> <教育改革の推進> ・JABEEでの経験を踏まえ、良い点を全学科に展開する。 ・学士課程教育支援システムを活用し、学士力の育成と保証を行う。 ・「技術者教育に関する分野別の到達目標の設定に関する調査研究(先導的 <sup>1</sup> 大学改革推進委託事業)」に協力し、工学部共通コア科目の実施を推進する。 <その他> ・ハラスメント研修会を実施する。	・JABEE継続受審に関し検討し、全学で取り組んでいる学士力保証の活動との関連から、継続受審を行わないこととした。なお、工学教育評価外部委員会は継続強化し、今後も実施する。 ・全学の学士力保証に向けて積極的に取り組んだ。今後も実施する。 ・文部科学省の調査研究の事業に協力し、報告書の作成に協力した。 ・ハラスメント研修会を実施した。 ・平成23年度からの教育組織改革(7学科を4学科9コースに再編)に伴い、新たに取組んだ内容について、反省会を実施した。今後、問題点の改善を検討し、来年度の教育に反映させる。 ・教務とFDと外部評価およびFC(ファカルティコーディネータ)の間の連携を強化するため、教育運営会議を設置した。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b> <若手教員支援> ・若手教員の教育に関する負荷軽減策を検討する。 <研究資金獲得> ・産学連携を強化するための施策を検討し、実施する。 <その他> ・コンプライアンス研修会を実施する。	・若手教員の教育に関する負荷軽減策を検討したものの、効果的な対策を見出せなかった。 ・産学官の連携による「岡山情報通信技術研究会」を10月に立ち上げ、3月末までに4回の研究会を開催した。 ・コンプライアンス研修会を実施した。
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③社会貢献領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b> <小中高生への働きかけ> ・小中学生向けの工学理科教室の開催を検討する。 ・以下の事項を継続実施し、高校との連携を図る。 工学部独自の出前説明会、中四国の工学部説明会、高校理数科系教員との懇談会 <広報活動の充実> ・学部入試倍率(前期日程)の向上策を検討し、対処する。 ・女子高校生の受験率向上のための広報を行う。	小中高生への働きかけとして、以下の項目を実施した。 ・小中学生向けの工学理科教室 ・工学部独自の出前説明会 ・中四国の工学部説明会 ・高校理数科系教員との懇談会 広報活動の充実として、以下の項目を実施した。 ・学部入試倍率(前期日程)の向上策の一つとして、①日経ユニバーシティ・コンソーシアム(日経主催)のパネラとして参加して状況を日経新聞(11/12付)に掲載、②工学フォーラム2011(読売主催)のコーディネーターとして参加して状況を読売新聞(11/19付)に掲載を行った。 ・女子高校生の受験率向上のための広報として、①「夢ナビ」への掲載、②オープンキャンパスでの女子学生向けイベントの実施を行った。 なお、学部入試倍率(前期日程)の向上策を積極的にに行い、1.9倍(昨年度)を2.6倍(過去10年間で最高)に上げることができた。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>④管理・運営領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>④-1 目標</b> ・現状の様々な問題点を抽出し、対処策の検討を行う。 「報連相」の徹底、学部と大学院の連携整備など ・運営の効率化として、以下の項目を継続実施する。 会議関連(資料のPDF化と事前配布、最長2時間、17時以降は原則禁止) ・准教授会の開催(2回) ・コンプライアンス研修会の実施 なお、学部と大学院の連携として、関連する4学部長と2研究科長で討論の場を持った。	以下の項目を実施した。 ・「報連相」の重要性を教員会議で説明 ・会議関連の効率化(資料のPDF化と事前配布、最長2時間、17時以降は原則禁止) ・准教授会の開催(2回) ・コンプライアンス研修会の実施 なお、学部と大学院の連携として、関連する4学部長と2研究科長で討論の場を持った。
<b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>【総括記述欄】</b>	
今年度は、学科再編(7学科を4学科9コースに再編)を行った。様々な事柄について変更が必要であり、統一的な考え方で処理し、順調に終わることができた。なお、工学部共通コア科目の実施に関連し、文部科学省の先導的 <sup>1</sup> 大学改革推進委託事業「技術者教育に関する分野別の到達目標の設定に関する調査研究」に協力するとともに、実施体制の強化を目指した。残念ながら、平成24年度概算要求は却下されたが、来年度以降も実施体制の強化に取り組む。例年以上に広報を中心とした社会貢献を充実させ、学部入試倍率の向上を目指した。この結果、前期日程の入試倍率を1.9倍(昨年度)から2.6倍に上げることができた。この2.6倍の倍率は、過去10年間で最高の倍率である。具体的には、2つの学科で過去10年間で最高の倍率であり、全学科が2.0倍以上となった。今後、要因分析を行い、来年度の活動に反映させる。 国立大学53工学系学部長会議下の大学連携推進委員会に、中国・四国地区代表として参加し、副委員長として、日経ユニバーシティ・コンソーシアムや工学フォーラム2011に協力した。来年度も継続して協力する。	